

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	ブルースター		
○保護者評価実施期間	令和8年 1月 12日	～	令和8年 1月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数)
			6名
○従業者評価実施期間	令和8年 1月 8日	～	令和8年 1月 17日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数)
			7名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 2月 2日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・専門性の高い支援が提供できる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育士、看護師、理学療法士の専門職の視点を放課後支援に反映</li> <li>・医療的ケアや発達特性に応じて個別支援計画を丁寧に作成</li> <li>・放課後の活動や関わりの中で学校生活とのつながりを意識した記録や共有</li> <li>・職種を超えた情報共有、ケース検討</li> <li>・学校生活やガイドライン、医療的視点を踏まえた支援内容の確認</li> <li>・保護者からの意見や学校での様子を支援に反映</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修や勉強会への参加、知識や技術の継続的な更新</li> <li>・支援内容の振り返りと見直し</li> <li>・医療、教育、関係機関との連携強化</li> </ul>
2	・関係機関との連携が強い	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校や医療機関、相談支援専門員等と放課後支援の役割を意識した情報共有</li> <li>・個別支援計画を共通理解のツールとして活用</li> <li>・学校生活と放課後支援の間で支援内容や方針のずれが生じないように定期的に確認</li> <li>・保護者の意向を踏まえたうえでの連携や調整</li> <li>・必要に応じたケース会議への参加や開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関係機関との情報共有の質や頻度の見直し</li> <li>・支援開始時、進級等の節目での連携の強化</li> <li>・新たな関係機関とのネットワークづくり</li> </ul>
3	・地域との交流が多い	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校生活や年齢に配慮し、放課後や長期休暇を活用した地域交流への参加</li> <li>・公園や公共施設、地域行事など身近な地域資源を活用</li> <li>・子ども同士の関わりが自然に生まれるよう活動内容を工夫</li> <li>・交流先に対して子どもたちの特性や配慮点を事前に共有</li> <li>・学校生活とのつながりを意識し、社会性の育ちにつながる活動を選択</li> <li>・交流後にスタッフ間で振り返りを行ない、次の支援に活かす</li> <li>・保護者に対し活動内容や目的を丁寧に説明</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域との関わりを通じた社会参加の機会の拡充</li> <li>・交流内容や方法の見直し、幅を広げる取り組み</li> <li>・感染対策や安全面を考慮した新たな交流方法の検討</li> </ul>

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・同年代(幼稚園や保育園に通う健常児と呼ばれるお子さん)との交流が少ない	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療的ケアや体調面への配慮が必要な児童が多く、同年代の子どもの交流に慎重にならざるを得ない</li> <li>・感染症リスクや安全面への配慮</li> <li>・学校や地域側との受け入れ体制や理解の違い</li> <li>・放課後の時間や活動内容の制約により、交流の機会が限定されやすい</li> <li>・同年代の児童との関わりは社会性や学校生活・地域生活への参加に繋がる重要な要素であることは認識している→無理の無い形での交流方法を検討(量ではなく安全に配慮した質のある交流)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交流の形を広くとらえる</li> <li>常時の交流ではなく短時間・少人数・行事やイベント単位での関わり</li> <li>・段階的な交流</li> <li>見学や同じ空間で過ごす、簡単な活動の共有等</li> <li>・子どもの特性や必要な配慮を事前に丁寧に共有</li> <li>・代替的な交流の工夫</li> <li>地域イベントへの参加やきょうだい児・地域ボランティアとの関わり、オンラインや間接的な交流(製作物の交換等)</li> </ul>
2			

--	--	--

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 ブルースター

公表日 令和8年 3月 2日

利用児童数 7名

回収数 6名

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1	子どもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	5			1	活動内容に応じたスペースの確保や環境調整は行っておりますが、その工夫が十分に伝わっていなかった可能性があります。今後は活動環境についてより分かりやすくお伝えしていきます。
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	5			1	配置は適切ですが、利用児一人一人の状態変化や、突発的な対応が必要となる場合に備え、引き続き職員配置や支援体制の見直しを行なっていく必要があると思っています。
	3	生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	6				
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	5			1	必要に応じて落ち着いて過ごせるよう物理的な空間の確保や仕切りを用いた個別空間づくりを行なっています。
適切 な 支 援 の 提 供	5	子どものことを十分に理解し、子どもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	6				
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	6				
	7	子どものことを十分理解し、子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	6				
	8	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	6				
	9	放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	6				
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	5			1	子どもの状況やニーズに応じて活動プログラムが固定化されないよう工夫をしていますが、その取り組みが十分に伝わっていなかった可能性があります。今後は活動内容やねらいをより分かりやすく共有していきます。
保 護 者 へ の 説 明 等	11	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他の子どもと活動する機会がありますか。	6				
	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	6				
	13	「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	6				
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	6				
	15	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達状況について共通理解ができていますか。	6				
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	6				
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	6				
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいの支援がされていますか。	6				
	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	6				

	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	6				
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	6				
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	6				
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	6				
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	6				
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	6				
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	5	1		事後報告を受けたことが何回かあったので「はい」とはいえない。	この度は事故等が発生した際のご連絡や説明についてご不安をお掛けし申し訳ございませんでした。事後報告となったケースの件真摯に受け止めております。今後は連絡のタイミングや説明内容について改めて職員間で確認・共有を行ない、より迅速でわかりやすい対応に努めてまいります。貴重なご意見をありがとうございました。
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	6				
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	6				
	29	事業所の支援に満足していますか。	6				



供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○			
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○			毎日必ず実施できてはいないが、気づいたことや共有したいことはLINEを活用して情報共有を行っている。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○			
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○			
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか。	○			
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○			
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○			
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○			
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○			
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○			
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○			
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○			
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○		他事業所のお子さんと関わったり、地域の催しものにも参加したりして、できる範囲で関わる機会を設けている。	感染症に配慮しながら今後は他児との関わりや活動の機会を今以上にやしていこうと思う。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	○			
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○			
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○			
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○			
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○			
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○			
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○			

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	○		毎年クリスマス会等、親子参加型（ごきょうだい児含む）の交流会を設けている。	
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○			
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	○			
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○			
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○			
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○			
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○			
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○			
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	○			
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○			
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○			
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○			安全計画に関してはホームページに記載があるが、認知度が低い為、掲載している旨をご家族にも通信を通して報告する。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○			
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○			
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○				